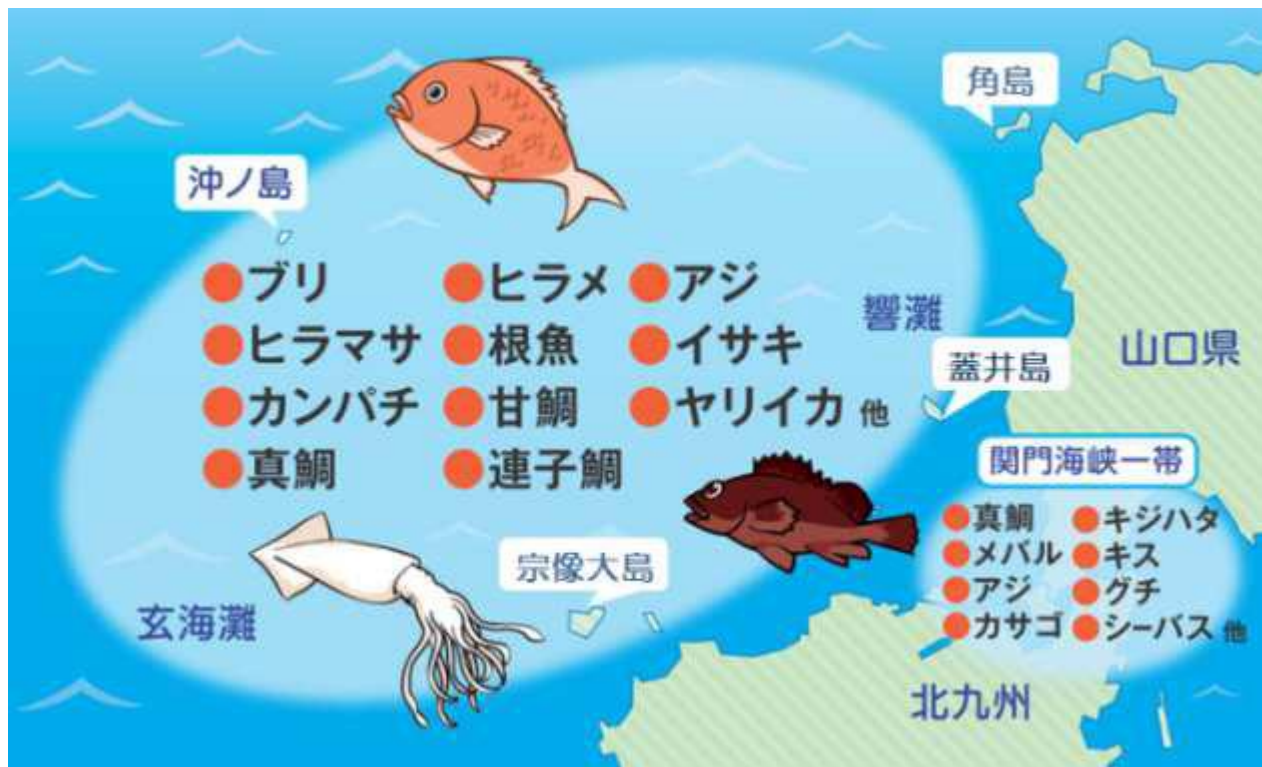


北九州へ手ぶら釣り旅。酒好き、レトロ好きにもたまらない、魅力を秘めた街

福岡県はグルメな街……なだけではなく、実は釣り人にとっての聖地でもある。関門海峡の北西に広がる「響灘」、佐賀県から福岡県沖に広がる「玄界灘」は、対馬海流が流れ、国内でも有数の魚影を誇る釣り場。中でもヒラマサ、ブリといった青物や大型マダイを狙って豪快なファイトを楽しむ釣り、アラやハタ類といった美味しい高級魚を狙った釣りは特に人気が高く、関東などから遠征する人も多いのだ。



とは言っても、釣リクロウトだけが楽しめる場所ではなく、ビギナーでも安心して楽しめる釣リや、手ぶらでOKのオールインワンパッケージも用意されている。今回はGO OUT WEB釣リ好きメンバーが、憧れの地での釣リと、北九州エリアのレトロな街歩きを楽しめる。福岡県北九州市は、関門海峡に面した九州最北端の都市で、交通の便がいいことから、玄界灘で大物を狙う釣リ人のベース地としても最高の場所。九州の玄関口として栄えた街で、釣リ以外にも「角打ち」、「門司港レトロ」などなど魅力あふれる街なのだ。



北九州から出船して1~2時間ほど沖に走ると憧れの玄界灘。また、港から5~20分ほどの関門海峡でも釣りが楽しめる。関門海峡は、海が時化て外海に出られない時でも釣りができる確率が高い安定した釣場。遠征に行ったものの釣りができなかったとなると残念な気持ちになってしまうので、セカンドチョイスがあるのは嬉しいところだ。実は、今回も、玄界灘で大物を狙おうと意気込んでいたものの、風が強くて船が出せないということで断念。関門海峡でカサゴ釣りに変更となった。そして、待っていたのは、まさかの大爆釣と美味しい料理だった。関門海峡でアラカブが爆釣！朝5:30に小倉駅近くのホテルを出てタクシーで10分ほど走ると、今回お世話になるり船「北斗丸」が待機する「大里漁港(だいらぎょこう)」。



狙う魚は、カサゴ。九州では「アラカブ」の名前で親しまれている魚で、アラカブの煮付けや唐揚げは北九州の居酒屋で定番メニューとなっている。釣り方は、サバの切り身やイカゲソを使ったエサ釣り。誘い方なども簡単なので初心者でも楽しめる釣りだ。さっそく仕掛けを落として竿をあおって誘いを入れると、いきなりアタリが出始め、カサゴが姿を見せてくれた。小ぶりなサイズも多いものの、時折 25 センチを超える立派なサイズがかかると、リールも重くなって引きも十分楽しめる。釣りをしながら、船の移動中は海から眺める下関や北九州の景色もバッチリ楽しみ、あっという間にお昼に。半日アタリが続いて 1 人あたり 30~50 匹ほどの釣果となった。僕ら的には大満足の爆釣だったが、秋から早春のベストシーズンで調子のいい時には 100 匹を超えることもあるというから、どれだけ魚影が濃いのかと驚きだ。

釣った魚はレストランで豪華料理に。

今回の釣りのお楽しみはもう一つ。港からすぐ近くにある、海が見える素敵なレストラン「ラ・メール雅」で、釣った魚を調理してもらおう。



九州の甘い刺身醤油で味わう刺身、身がぷりぷりの煮付け、アラカブの旨みが凝縮した味噌汁、サクフワの唐揚げ、鍋料理など、これだけ自分で作ろうと思ったらとても大変だ。



その一つ一つが美味しくて、釣りたて新鮮な味を満喫し、最高の思い出となった。

「北九州釣りいこか倶楽部」に任せれば楽チン。

実は今回のカサゴ釣りは、遊漁船の予約からレストランでの調理までの全てを「北九州釣りいこか倶楽部」でのオーダーでした。

興味のある方はご相談下さい。北九州までの手配を致します!!